

## 歯学部卒業おめでとう



## 卒業おめでとう

歯学部長 山田好秋

あなた方は“暖冬で観測史上初めて新潟市内の1月の積雪が無い”という記念すべき年に卒業を迎えます。地球温暖化の面からみればよい記録とはいえないのかもしれませんが、国家試験を受ける時期に暖かい日が続くことはありがたいことです。さて、歯学部をみると、道路の拡張で歯学部の面積が最小を記録した年であり、私にとっては、あなたがたと一緒に学部長を卒業する年でもあります。

さて、昨年首都圏同窓会から歯学部が担当なので何か話題を提供するようにとの依頼がありました。首都圏の同窓会では全学の卒業生が対象だったので、歯学研究の話をして興味を持たせようと考え、数十年前の卒業生が学んだキャンパスが今どのように変わったかを写真とビデオに収めて紹介しました。予想通り、皆さんに喜んで頂きました。予想していなかったのですが、古町の変貌ぶりはほんの数年前に卒業した人たちにも驚きの変化だったようです。これがきっかけとなり、富山の歯学部同窓生にも歯学部周辺と古町の変貌ぶりを紹介しました。現在では患者様が車で来院するのが大変なくらい狭くなっていますが、昔の歯学部附属病院玄関前には大きなポプラの木があったのです。皆さんに想像できますか。新潟に在住の同窓生にとっては大学周辺の変化は逐一確認できるのですが、遠方の同窓生には驚くほどの変貌です。国道の拡張に伴う桜の移転と防音壁の設置をスライドで紹介すると、皆さん一同に驚いておられました。

皆さんの住まいはどこですか？ 学校町通り周



歯学部附属病院（昭和50年ごろ）

辺に住んでいる人が多いのではありませんか。あなた方現役の学生にとってさえ、この数年で学校町通りは大きく変わっています。ましてや古い建物に分類されている歯学部および歯科診療棟はそんな遠くない、とはいえ数十年後には、改築または新築され、その場所すら変わっているかもしれません。変化は歯学部の建物だけではありません。今年度のニュースの中に歯科医師過剰問題解決に向けた動きがあり、8月31日付で文部科学大臣、厚生労働大臣によって歯科医師の養成数の削減等という確認書が取り交わされました。それを踏まえて、先般、今後の歯科保健医療と歯科医師の資質向上等に関する検討会の中間報告書が発表され、歯科医師の資質向上という観点から、合格基準を引き上げること、あるいは出題内容等について幅広く検討を行う旨の提言が行われています。歯科を取り巻く社会情勢も刻一刻と変化しています。常に新しい医療技術や知識を学び、患者様に喜んで頂ける歯科医師として活躍してください。



## 卒業おめでとう

新潟大学医歯学総合病院副院長 宮崎 秀夫

37期生の皆さん卒業おめでとうございます。6年間の歯学部生活いかがでしたか？健康を預かる職業、歯科医師として誇りを持って社会へ出て行く準備はできていますか？

皆さんはこれから、歯科臨床研修医の第二期生として全国の研修施設で新たなスタートを切ることになります。臨床実習の充実度では全国でもトップに位置する新潟大学の卒業生です。多くの同期研修医より1年は先を歩いていますので自信を持って研修に励んで下さい。そして、これからの研修1年間は質・量ともに他を圧倒し、その差をさらに広げてくれるものと確信します。そのためには、課された症例を漫然とこなすのではなく、絶えざる自己研鑽が必要なことは言うまでもありません。一つひとつの治療に対する自己評価と指導医の評価は不可欠ですが、患者（社会）の評価はさらに重要です。専門家が判断する治療ニーズと患者の治療欲求は必ずしも一致しませんので、コミュニケーション不足による信頼関係の破壊には気をつけて下さい。症例の一つひとつが歯科医師を育てることを認識し、患者から学ぶという謙虚な姿勢を忘れなければ生じない問題だと思えます。

ところで、私は卒業と同時に大学院へ進学し、大学病院や過疎地病院での歯科診療に従事し、学生講義や実習への参加、実験室での基礎研究、他の教育機関での歯科保健指導や講演、複数回の海外調査などいろいろな経験をさせていただきました。どの仕事も面白く、寝る時間がもったいないと強く感じた時期でした。卒業直後（29年前にな

りますが）は、周りが皆そうでしたので、何疑うことなく臨床経験を積み速やかに開業するつもりでおりました。ところが、大学院の4年間の経験が私の将来に大きな影響を与えたようで、気がついてみると大学で教育、臨床、研究にどっぷりと漬かっておりました。その分岐点は30歳前後にありました。どちらの人生が良かったかを比べようはありませんが、少なくとも歯科医師としてやり甲斐のある仕事、自分にとってより楽しい仕事を選択したと思います。皆さんは今、正に将来設計を立てつつあるものと思います。これからの4、5年は非常に重要な時期なので、労を惜しまず何事にもチャレンジして、自分に合った楽しい生き方ができるように道を切り開いて行ってほしいと思います。

臨床研修の1年間は、プライマリ・ケアー歯科医として思いっきり研鑽に励んで下さい。そして、研修終了後には実践に即した課題を持って戻ってこられることを期待します。大学院あるいは専門医養成コースへ進む人のために、新潟大学は準備をして皆さんをお待ちいたします。

最後になりましたが、皆さんには一日でも早く先人を乗り越えてほしいと願って止みません。卓越した臨床家として、あるいは、著名な研究者や教育者として世界の歯科界をリードする人材に育て下さい。その暁には、新潟大学歯学部は皆さんを誇りに思い、社会に向けて自慢しましょう。歯学部の実現可能な長期目標だと私は確信しています。

# 卒業にあたって

歯学科6年 新家 央 康

## 1年生

幹事に指名されてしまいました。

新潟大学に入学する前は、「副キャプテン」や「副主将」など、補佐役が主な役職でした。キャプテンや主将の意見に対し、時には従うだけでよく、時には強く反論もでき、しかも、監督とチームとの間に立たされるつらさもあまりない、なかなかおいしいポジションでした。その私が幹事として人をまとめるポジションについてしまったのでした。私は、訳あってみんなと年が離れているため、考え方の相違に戸惑いを感じていました。

着任早々、体育祭の看板を製作する必要がありました。私たちは主に一般教養を受講してましたので、五十嵐で生活してました。ですから、看板製作を行う旭町に、「どうすればみんなに集まってもらえるだろう？ いつならみんな来られるだろうか？」と悩んだことを今でも覚えています。また、早期臨床実習では、絶対に実習に遅れてはいけないと思っていましたので、皆に強く言ってしまったことがありました。遅刻常習犯である私が言うべきことではなかったと反省しています。

## 2年生

「THE CELL」の授業があり、試験の日程を決める必要がありました。なんせ「試験」ですから全員が都合の良い日でないと駄目でした。土曜日しか都合がつかず、しかも、寒い時期でしたので、ストーブの準備などがあり、苦労したのを覚えています。この年から、編入制度が始まりました。私と同じような年齢の人が入ってくれたのでうれしかった反面、みんなとの距離が感じられ、その間に挟まれていたようですが、あまり悩んだ記憶はありません。もう少し、積極的に取り組みればよかったと今更に思います。

## 3年生

今度は私たちと同じく学んでいく編入生が加わりました。「よし、みんなとうまく付き合えるように間に入って頑張ろう！」と気を引き締めていま

した。なんてことはありません。私の思惑をよそに、編入生の方々はみんなと上手に付き合い、すぐに打ち解けてしまいました。でも、結果オーライなのでよかったと思います。

## 4年生

なぜかあまり覚えていません。

## 5年生

ポリクリ、臨床実習の引継ぎが始まりました。自分も実習が忙しかったので、「みんな勝手にやっけて頂戴っ！」という気持ちでいっぱいだったので、そうは言えません。ですから、総診の役割分担等をしました。ですが、みんな協力的であつたので、それほど問題はなかったように思います。

## 6年生

引き続き臨床実習で、あまりに自分にとっては過酷でしたので、体調を崩し、病院にて「肺炎」と診断され、やむなく休学してしまいました。6年生にもなつてというか、この年にもなつて自己管理もできないとは先行きがかなり不安です。

夏休み前に総診技工室の大掃除を行いました。何年分の汚れでしょうか、ものすごく汚かったように思います。ですが、みんなが一致団結して取り組んでくれたため、大変きれいになりました。このときのみんなの団結力には感動を覚え、「幹事」としての感動を味わえた日でもありました。締めくくりとしての業務が一挙に11月に押し寄せ、5年生との引継ぎもあり、どたばたと大変でしたが、最後に先生方と語り合えてよかったと思います。

6年間を振り返ってみますと、いろいろと大変なことがありましたが、多くの協力を得ながらも幹事業を無事に終えることができました。今思えば、幹事をさせていただいたことは大変有意義でした。ですが、仮に1年生に戻つたとしても、もう幹事はしたくありませんが…。

この6年間、ご指導、ご鞭撻を承りました諸先生方ならびに医療スタッフの方々に心より感謝申し上げます。また、同期の方々にも大変お世話になりました。今後皆様のご健勝ならびにご活躍をお祈り申し上げます。

## 卒業にあたって

歯学科6年 二瓶 亜津子



新潟は福島県出身の私にとって、小さい頃に佐渡へ家族旅行に行ったり、信濃川の川下り遊びをしたり、度々、寺泊へ魚介類を購入しに行ったりと、高速自動車道で1時間半程度で行くことができる大変馴染みのある、また親しみを感じる隣県です。そんなお米やお魚・お酒が美味しいこの土地で、医療人を目指して新潟大学歯学部に入學し6年が過ぎ、ようやく卒業を迎えることになりました。私にとってこの6年は大変長く感じ、今振り返ると「いやあ、6年は長かったなあ」の一言に尽きるように思います。

この6年を振り返ってみると、やはり思い出すのは、なんといっても臨床実習です。5年生のポリクリでは、友人同士互いに擬似患者となり、浸潤麻酔など、互いの信頼関係、寛容の心、忍耐力がなければ成り立たない貴重な実習もさせていただきました。初めて浸潤麻酔をする時には大変緊張し手が震えていたことを覚えています。そしていよいよ6年間の集大成ともいえる臨床実習が5年生の秋から始まりました。この臨床実習は、自分が将来歯科医師として患者様と接するに当たっての心構えや歯科医療に対する考え方の土台となった大変有意義な実習であり、歯科医師という資格を持たない学生という立場で臨床実習を経験出来ることの有難みを感じた大変貴重な経験をさせて頂いた時間でもありました。

自分自身の知識や技術・経験の不足から毎日の実習が緊張の連続で、朝から夜まで一日の時間の過ぎることのなんと早いことか。朝、頭の中に午前中の診療手順などをギッシリ詰め込み緊張しながらの診療を行い、昼ごはんもままならないまま、今度は午後の診療手順を頭の中に詰め込んで再び緊張の診療を行い、プロトコールを書き終え確認印をもらい、自分の席に座り気付いたら外はすでに真っ暗……。そして一息つく間もなく今度は技

工物製作を時間一杯まで行い、それからその日の診療内容を思い返し、いろいろと反省しながら心も体もグッタリしながら帰宅し、自宅でも次の実習のレポートを作成する、という毎日の繰り返しの毎日、毎日の実習を終了した後の疲労感は大変なものでした。あまりの忙しさと緊張感で「やっていけるのだろうか」「これではゲツソリとやせてしまうのでは……」と心配・不安に思いましたが、幸か不幸か、食欲がなくなりやせてしまうことはなく、逆に帰宅してから努めて夕食をしっかりと摂ったせいか体重は増加傾向となり、私の心配は取り越し苦労となったのでした。

実習中は多くの先生方に大変お世話になりました。ごちない手技に対して丁寧に指導して頂いたこと、色々質問しても嫌な顔もせず熱心に教えて頂いたこと、何回も同じようなことを聞いても忍耐強く指導して下さいしたこと、夏休み中義歯製作をしていた私に辛抱強く指導して下さい、休日にもかかわらず手際の悪い私にイライラすることもなく、やさしく丁寧に教えて下さったこと、私の技工物の為に朝早く出勤までして下さい丁寧にしつかりと指導して下さいしたこと、などなど……数えだしたらきりがなくらいです。総診の患者様にも大変お世話になりました。総診の患者様は本当に神様のような方々ばかりで、学生の私を広い心で優しく暖かく見守って下さりました。患者様に励まされたり勇気づけられたり気付かされることばかりでした。患者様との会話の中で、歯科医師としての心構えに関して、大切にしていかなければならない、忘れられない、また忘れたくない言葉が数多くありました。これらの言葉は頭から離れず私の心の中にしっかりと残っています。今後も迷ったり悩んだりした時に必ず私の支えとなり進むべき方向を指し示してくれます。

知識や技術は経験を積むことにより高めることは出来ますが、一番大切なのは人間性であると、この実習を通して痛感しています。多くの人達の支えがあつての自分であるということを改めて感じ、今後も感謝の気持ちを常に持ち、謙虚に、しかし志は高く持ち、患者様の訴えに真剣に耳を傾け、自分の出来る限りのことを誠心誠意行い、地道に努力を重ねていきたいと思ひます。最後に、

歯科医師としての大切な心構え・姿勢についての  
方向性を与えてくれた新潟大学歯学部の教育シス

テム・熱意ある先生方・先輩方の努力に深く感謝  
しております。

